

村営住宅建築の検討について／野甫英芳

続きまして『村営住宅建築の検討について』お伺いします。村内の住宅不足問題で、来島して仕事をしたい、また新たな人材を招聘したいという民間の思いがあります。しかし「住む場所がない」、「住宅不足で人材確保ができない」という課題があります。村としては、このような現状を把握していると思うんですが、その状況を改善する計画、新しく村営団地を造るとか村営住宅を造るという計画があるのかどうか、お伺いします。

■議長（金城信光） 答弁。

■国吉善希建設課長 野甫議員のご質問にお答えします。村の住宅不足の問題については十分に理解しております。現在、村内には33棟117戸の村営住宅と一次産業者向けの定住促進住宅が6棟、特定専門職向けの住宅2棟16戸があり、ほぼ満室の状況です。村営住宅においては現在4戸の空室が出ている状況ですが、修繕におきまして入札の不調続きで修繕がまだできていない状況です。取り急ぎ修繕の調整を行っており、4月から6月にかけて早急に修繕を行い、募集を行えるようにしたいと考えております。

本村の公営住宅は県内の小規模離島としては圧倒的に数が多く、現状、管理・修繕も立ち行かない状況となっております。今後の村営住宅の計画としましては、棟数を減らしつつ戸数を増やす、建て替えによる集約

増戸、戸数を増やすことを考えております。また、空き地の調査を実施しており、空き家対策等計画を立てて事業化を図っていきたいと考えております。

■議長（金城信光） 野甫議員。

■7番 野甫英芳議員 いろいろ難しい問題なんですけど、住民の中にも自分の住宅が崩壊して住めなくなって、村営住宅に移るとい方がぼちぼち出てきています。村長、村民の皆さんが「島内に就業人口を増やして、もっと村内経済を明るくしよう」とか、「発達させよう」とかいう話をします。この前も一般の事業者の皆さんと話したら、「いろいろ呼びたいんだけど住む場所がない、だから呼べない」というようなことを話すんですよね。

そういうことを加味して、今後どうするのかを検討して、というか、『どうするのか』というところが非常に分かりづらい現状ですので、村長、ぜひ今年度、それから新年度から住民に理解できるような情報を与えていただきたいと思います。村長は、新しい村営住宅の建設に関してどう思いますか。

例えばギークハウスとか定住促進住宅とか建設しましたが、造ると同時に入居していますよね。村内の住宅でもあちこち潰れたりとかして、建設課にいる岡さんという方が調査を始めています。彼の話を見ると「なかなか難しい」というような話もしているんですけど、今後どうやっていくのかとか、村長としてはどう思いますか。「新築住宅をやる」と

いう考えはあるのかどうかを聞かせていただけますか。

■議長（金城信光） 答弁。

■真栄田孝村長 住宅問題というのは、やはり沖縄県の離島、どこの離島でもそういう住宅問題に関しては課題として挙げています。その中で、やはり行政ができるところとできないところがあります。私は、民間からきました。これは行政だけの問題じゃなくて、民間も考えていかないといけない。自分たちの住宅ですので、行政だけにどうにかしろというのではなくて、ここだけの意見ではなくて、民間の皆さんもしっかりこの問題について、どうしたほうがいいのか、意見を上げてもらう。

物価高騰で、今回から民間の生コン等が上がるという報告も上がってきています。その中で、新築できるのか、コンクリートで建てられるのか、民間では厳しいですよ。それは行政側でも一緒なんですよ。その中で、どういうふうに家を建設していくか。じゃあ、ウッドハウス（木材住宅）にしていくのか、だったらもう今あるものを再建していくのか、いろいろある中で、担当課に岡さんという方を置いてヒアリングをしています。

その中でやはり、「家はあるけど、トートーメー（仏壇）がある」ということがあります。民間の方々もしっかりこの仏壇問題に関しても、一緒に考えてもらいたい。ただ行政機関だけに言うのではなくて、そこらへんもみんなと一緒に考えていかないと、今までどおり変わらないから。じゃあ「行政ができません。」と言ったらもうやらないのか、皆さんは。

「行政がやらなければ、じゃあ人は呼ばないのか、民間事業は止めるのか」というふうになってくると思います。議員の皆さんも同じ代表ですので、しっかりこの問題に関して、これからはこの問題に限らず、今抱えている伊平屋島の問題に関して自分たちの意見をしっかり述べてほしい。「自分はこうしたい、こうしたほうがいいんじゃないか」という意見をお互いに言い合いながら議論して、「この伊平屋島をみんなで作っていききたいな」と思っています。ちょっと大きく言ってしまったんですが、この住宅問題に関して、やはりできるところとできないところがありますので、行政ができること、民間ができることをしっかり明確にして、伊平屋島の住宅問題に関して、これから一緒にみんなで考えていきましょう。

■議長（金城信光） 野甫議員。

■7番 野甫英芳議員 分かりました。いろんな問題がございますので、それがどのような状況であるのかということ、村民に広く知らせたほうがいいかと思います。今後、情報の伝達のやり方も考えてやってほしいと思いますので、よろしくお願いします。